

第十一章 筏路及流材路

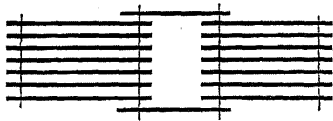
第一章 筏

237. 筏ノ組立 山奥ノ森林デ材木ヲ伐裁シ、之ヲ溪流又ハ山川デ流シ下スノハ、斯クノ如キ多容貨物ヲ水運ニ依ツテ輸送スル經濟的ノ方法ニ外ナラヌ。而シテ流材ノ散逸ヲ防グ爲、之ヲ平面的ニ組立テ、木材ノ浮力ヲ利用シテ下流ニ流スノガ即チ筏デアル。

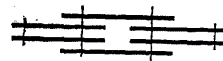
筏ノ組立方及寸法ハ材積ノ多寡、水勢ノ緩急及地方ニ依ツテ同一デナイ。米國おれごん州カラかりふおるにやノさんぢーご (San Diego) ニ運漕スル筏ハ長サ 700 呎、幅 30 呎、材積 4 百萬尺メカラ 5 百萬尺メニ及ブノハ恐クハ世界一ノモノダト云ハレテ居ル。

238. 木曾川ノ筏及回漕 今木曾川ヲ下ル筏ノ組立ヲ述ベレバ次ノ如クデアル。

筏ハ大概 2 間 2 繼、幅 1 丈デ材料 20 乃至 22 尺メヲ以テ編成シタモノヲ乗ト唱ヘ、之ヲ組立テルニハ中央ナル眞、其兩側ナル眞脇、又其兩外側ヲ耳ト云ヒ、更ニ其外側ニ在ルモノヲ耳脇ト呼ンデ、以上 7 本ヲ 2 繼シテ



第四百六十四圖 筏



第四百六十四圖 A 筏

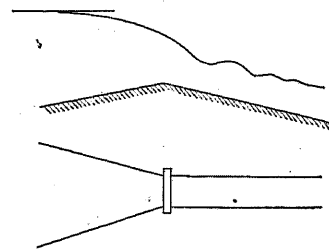
14 本ヲ下層ニ配列シ、左右兩腹ニ附木 2 本ヲ備ヘ (第四百六十四圖)、更ニ上層ニハ踏梁 4 本、副木 2 本ヲ載セテ (第四百六十四圖 A)、1 乗ヲ完成スル。若シ木材ガ惡小デー一定ノ材積ニ充タヌ時ハ猶ホ下層ニ數本ヲ増配スル。

而シテ下層ヲ通シテ 4ヶ所=腹帯藤ヲ一周セシメ、所々木材ノ間隙毎=床藤ヲ以テ結縛シ、以テ木材各個ノ動搖離散ヲ防ギ、腹帯藤ヲ周ラシタ上=ハ檜會木ト稱スル粗朶ヲ筏ノ幅=應ジテ横へ之ヲ固ク結附ケル。又踏梁ノ兩端=結着スベキ楫枕ハ全長 3 尺デ雜木ヲ以テ造リ、之=藤蔓ヲ以テ楫壺ヲ備附ケル。筏ノ組立ガ終レバ、檢尺人夫ヲシテ一掛員ノ監督ノ下=各材ノ樹種、材種、末徑、長ヲ測ラシメ、之ガ材積ヲ計算スル。而シテ筏=ハ 1 乘毎=手板ト稱スル木札ヲ附着シ、錦織綱場名ヲ以テ白鳥貯木所へ宛テ、流出ス。

回送ノ順序ハ本綱場カラ筏ヲ發送スル際=ハ 1 乘=付キ舳艫 2 人ノ回漕夫ヲ乘ラシメ、加茂郡勝山町デ 1 人ヲ減ズル。稻葉郡鶉沼又ハ犬山町ノ筏立所デ繼立ヲ爲シ、之ヨリ 2 人乗即 4 枚分=付 1 人ノ回漕夫トシ、美濃笠松町=至リ、茲デ更= 40 乘乃至 80 乘ヲ以テ小屋ト稱スル 1 材團ヲ編成シ、回漕夫 4 人乃至 8 人ヲシテ途中宿泊スベキ小舟ヲ率キ、尾張國海西郡兩國村=至リ、天候ヲ見テ白鳥=回漕スル。錦織犬山間 5 里、犬山笠松間 4 里、笠松兩國間 10 里、兩國白鳥間 6 里、凡ベテ 25 里ノ間木會川=筏ヲ流スノデアル。

第二節 筏路ノ構造

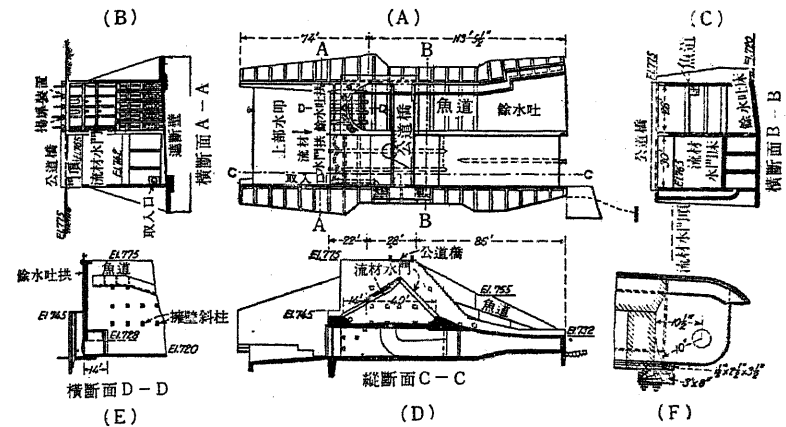
239. 筏路ノ構造 水路ヲ横ツテ堰堰ヲ設ケル時ハ其動堰ナルト定堰ナルト=論ナク、水運ヲ利用スルモノ=取ツテハ確カ=一ツノ障害タル=相違ナイ。而シテ船舶ノ交通ノ爲=ハ前=述ベタ如ク水閘ヲ作り、流筏ノ爲=ハ筏路ヲ設ケ、更=流材ノ爲=ハ流材路ヲ備ヘナケレバナラナイ。



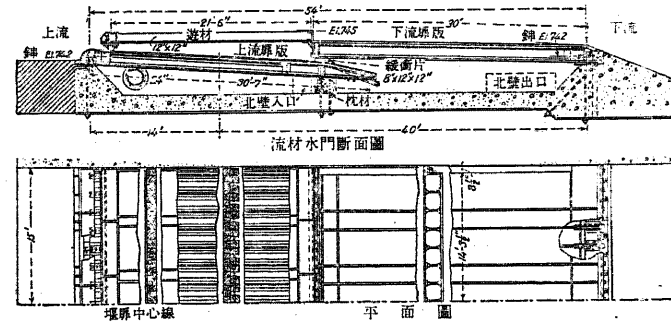
第四百六十五圖 筏路

餘リ高クナイ堰ナラバ、堰前ノ貯水池ハ即チ筏溜=充テル事ガ出來、堰頂ヲ横ツテ筏路ヲ築造シ、其入口=ハ筏門ヲ設ケテ之ヲ開閉シ筏ヲ通スコトガ出來ル。

筏門ノ第一種ハ扉版堰ナル動堰ヲ用ヒルノデ、其昇降=依ツテ筏路ノ開閉ヲ行フ。第二種ハ太鼓堰ヲ用ヒルノデ第二百九十三圖乃至第二百九十六圖 Bハ獨逸みゆるほーふ (Mühlhof) 筏路兼用洪水疎通太鼓堰ヲ示シタルモノデアル。第三種ハ推上堰ヲ筏門トスルノデ、第四百六十六圖乃至第四百六十七



第四百六十六圖 あいらんどれーき筏路



第四百六十七圖 同 推上堰流材水門縦断面圖及平面圖

圖ハあいらんどれーき (Island Lake) 貯水堤ノ筏路及餘水吐ヲ示シタモノデ、筏路ハ 30 呎ノ幅デ、堰頂ハ 20 呎ノ起伏ヲナシテ筏又ハ流材ヲ通過セシメルコトガ出來ル。

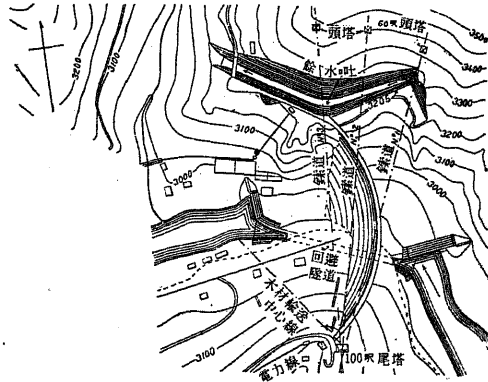
240. あーろーろく堰堤ノ流材路 米國ノぼいぜ河 (Boisé R.) ハ夥ダシ、流材ヲ輸送スルコトヲ以テ有名デアル。茲ニあいだほ (Idaho) ノ近クニアルあーろーろく (Arrowrock) 貯水堤ハ 24 萬英町ノ灌溉面積ヲ有シ、堤高 348

呎ニ達スル所ノ世界有數ノモノデ、開拓局ノ手ニ作ラレタ。而シテ貯水池ガ満水シテ居ル間即チ餘水吐頂ノ下 40 呎ヨリ低カラヌ間 1 年 75 日間 6 千萬米板積ヲ輸送シ得ル能力ヲ備ヘナケレバナラナカツタ。流材ノ寸法ハ

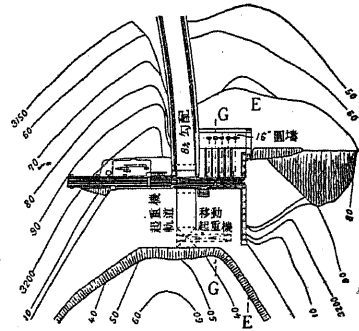
直徑 6.0 呎、最大長 60 呎ニ達シテ居ル。

あ堰ニ於ケル流材格ノ設備トシテハ貯水池カラ丸太ヲ引揚ゲル起重機ニ依リ、之ヲ卸樋ノ頂ニ齎シ、卸樋ニハ更ニ輾子及用鎖輸送裝置ヲ備ヘテ居ル。第四百七十一圖及第四百七十一圖 A ニ示シテアル如ク、丸太ハ

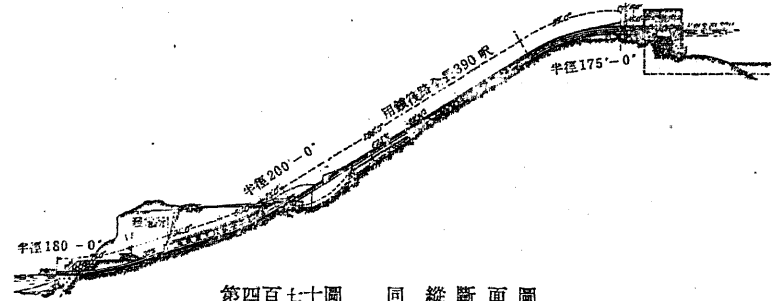
鍊條起重機ニ依ツテ引揚ゲラレテ堤頂ノコンクリート床ノ上ニ卸サレ、之カ



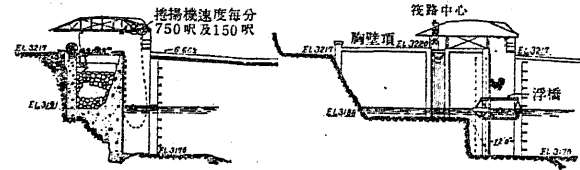
第四百六十八圖 あーろーろく堰堤平面圖



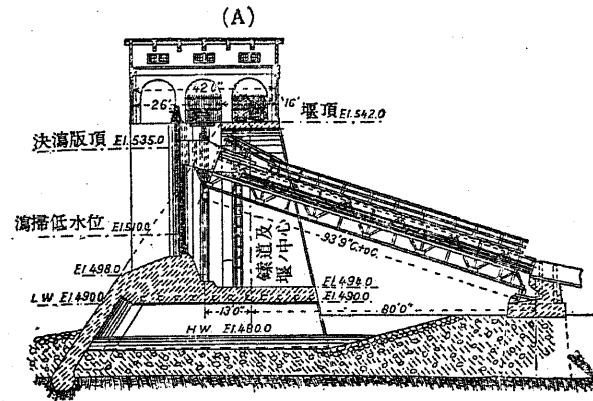
第四百六十九圖 同 流材路



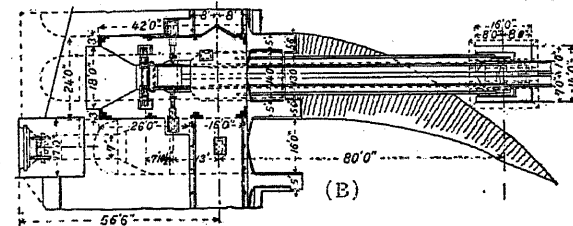
第四百七十圖 同 縱断面圖



第四百七十一圖 丸太引揚曳卸裝置

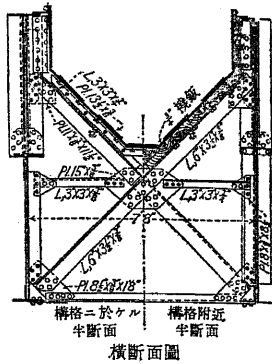


第四百七十二圖 ちすこほす流材路断面圖



第四百七十三圖 同 平面圖

ラ更ニ揚ゲラレテ輓子ノ上ニ移サレ、堤頂ヲ横ツテ距鐵ノ附屬シタ鎖ニ送ラレ、此鎖ニ依ツテ丸太ハ毎分 85 呎ノ割合デ卸樋ノ坂ヲ下ル。此鎖附卸樋ノ全長 390 呎アル。鎖附卸樋ニ接シテ長サ 245 呎ノ重力卸樋ガアル、之ヲ下レバ丸太ハ河ニ達スル。堤頂カラ河迄ノ全落差ハ 250 呎デ、流材路及附屬設備ノ工費 54,200 弗デアル。



第四百七十四圖 同卸樋断面圖

241. あぢすこほす堰堤ノ流材路 米國めーん州れんぢれーれーき地方 (Rangeley Lake Region) ノあぢすこほす (Aziscohos) 貯水堤ハこんくりーとヲ以テ作ラレタモノデアルガ、其流材路ハ第四百四十二圖乃至第四百七十四圖ニ示シタモノデアル。

242. 庄川筋小牧祖山兩堰堤ト流木 庄川ハ源ヲ濃飛ノ國境ニ發シ、越中ヲ貫流シテ富山灣ニ注グ北陸道有數ノ河川デ、延長 132 軒ニ及ンデ居ル。庄川電氣株式會社ハ庄川筋小牧ニ高堰堤ヲ築造シテ、其湛水距離上流 12 軒ニ及ンダ。又此湛水區域ノ上端祖山ニモ昭和電力株式會社ニ依ツテ高堰堤ヲ設ケ、其湛水距離上流 8 軒ニ達シタ。此結果トシテ庄川ニハ 20 軒餘ノ間ニ上下 2 段ノ人工湖ガ出來タノデアル。

大正 8 年 1 月小牧發電所ハ水利使用ノ許可ヲ受ケ、九月庄川水力電氣株式會社ガ設立サレタ。又昭和電力株式會社ハ大同電力會社ニ依ツテ庄川九頭龍川ノ兩水系ニ存スル凡ソ 12 地點ノ水利開發ヲ目的トシテ、昭和元年ニ創立サレタモノデ、大正 14 年 1 月 15 日祖山發電所ノ水利使用許可ヲ受ケ、同社第一期事業トシテ建設スルコトニナツタ。

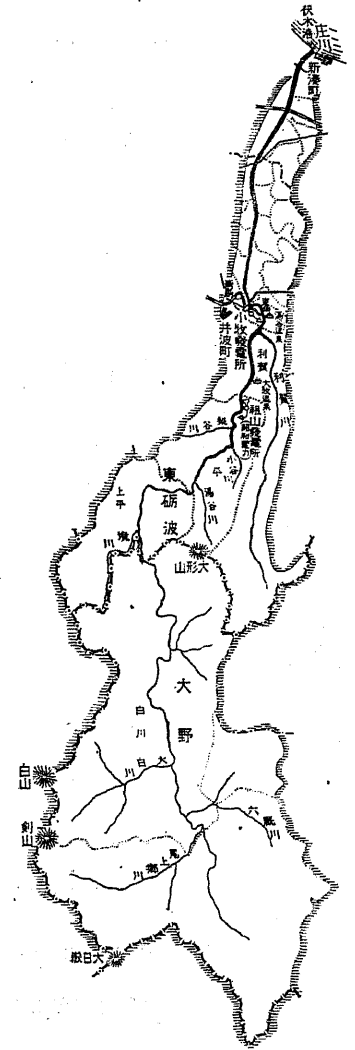
庄川水力ノ小牧發電所ハ前ニ述ベタ如ク堰堤式ノモノデ、富山縣○○○○

○○○○○○○○○ニ於テ庄川ノ激流ヲ堰止メ、高サ 00.0 米 底幅 65.9 米、長サ 305 米デ、貯水量 37,837,000 立米 (1,337,000,000 立尺)、最大出力 00,000 キロわつと工費 36,000,000 圓餘、堰堤築造ニ要シタせめんと 43 萬樽ニ上リ、昭和 5 年 11 月竣功、使用認可ヲ受ケテ發電ヲ開始シタ。

祖山發電所モ亦堰堤式ト云フベキモノデ、小牧貯水池ノ上端、兩岸相迫リ岩盤對峙スル○○○○○○○○○ニ於テ高サ 00.0 米、底幅 65.2 米ノ大堰堤ヲ築造シ、湛水上流 8 軒ニ及ビ、貯水量 32,053,000 立米 (1,153,000 立尺)、最大出力 00,000 キロわつとニ達スルモノデ、昭和 5 年 12 月竣功、使用認可ヲ經テ發電ヲ始メタ。

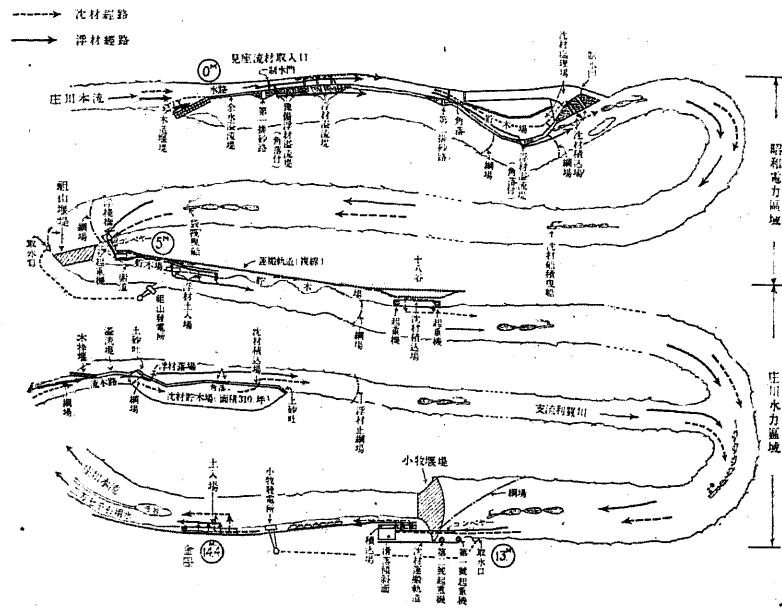
兩發電所共魚族遡遊ヲ便ナラシメル爲メ、上下流庄川全般ニ大規模ノ養殖ヲ行ヒツ、アル外ニ、我邦始メテノ試ミデアアルえれべーたー式魚道ヲ設ケテ魚族ノ遡河ヲ容易ナラシメタ (第十章 235 参照)。

又庄川ハ急流デ、從來上流カラ木材流送ヲ盛ニ行ヒ來ツタ所デアルガ、小牧祖山二堰堤ノ爲メ、水流ガ遮斷サレタカラ、祖山貯水池ノ湛水上流端ニ流材取入口ヲ



第四百七十五圖 庄川流域及其附近地圖

設ケ、祖山堰堤ニベるとこんべやヲ作ツテ流材ヲ堤下ニ運ビ、更ニ小牧ニ至ツテベるとこんべやニテ堰堤ヲ越エ、堤下ノ金屋土入場ニ於テ流材ヲ放下スル機構デアリ。見座金屋間凡ソ23軒、流材ハ浮材ト沈材ニ分チ、浮材ハ筏ニシテ舟デ曳行キ、沈材ハ舟ニ積ンデ曳下リ、從來ノ河筋流送ヲ代行スル仕組デアリ、此外右支利賀川モ亦前ト同様ナ方法ニ依ツテ小牧ニ向ケ浮材及沈材ヲ送ツタ。第四百七十六圖ハ以上ノ運材設備ヲ圖解シタモノデアリ。



第四百七十六圖 庄川運材設備圖解

243. 庄川筋小牧及祖山兩貯水池及兩堰堤ノ運材設備 庄川筋ニ於テ兩堰堤築造ノ前、流木ノ状態及築造ノ後、運材設備並ニ運轉ノ模様ハ次ノ如クデアリ。

第一 庄川ニ於ケル在來ノ流木 庄川ノ上流ニ於ケル國有林、又ハ木材會

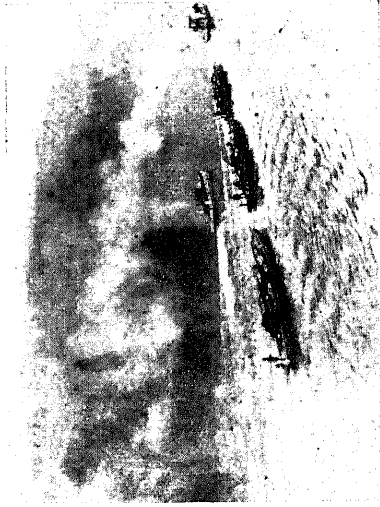
社若クハ個人所有ノ木材ハ毎年豫メ經濟的ニ採算シタ上、拂下ガヲ受ケテ伐裁シ、先ヅ適當ナ季節ニ川出シト言ツテ木材ヲ川入スル。其場合ノ一川ト云フノハ2,000石、5,000石又ハ10,000石ナリノ木材ノ集團ヲ形ヅクリ、川狩即チ流下作業ヲ始メルノデアリ。此ニ1石トハ材積計算ノ單位デ、木材ノ高サ10尺、切口1尺四方ノ容積ヲ云フノデ、實際ノ成材ハ末口ト本口トガ違フカラ、長サ l 尺、末口本口夫々 F_1 及 F_2 方尺、其中央ノ斷面積ヲ F_m 方尺トスレバ眞ノ材積ハ $\frac{l}{6}(F_1+4F_m+F_2) \div 10 \times 1 \times 1 = \frac{l}{60}(F_1+F_m+F_2)$ 石トナル勘定デアリ。

實際上木材ハ或ハ2本デ1石ニ相當スルモノモアリ、或ハ2本半デ1石ニ當ルモノモアル。一川假リニ5,000石トシテモ10,000本トカ12,000本トカナル。

川流シノ方法ハ河川ノ源流、中流及下流ナドノ區域ニ依リ差異ガアルガ、庄川ノ發電區域ハ中流中ノ下流部デアリ。此區域ニ於テハ一本ヅ、流スノデ之ヲ一名管流シト言ツテ居ル。

庄川ニ於ケル流送ノ期間ハ毎年10月中旬カラ翌年2月末日迄ト限ラレテアルガ、之ハ山デ伐木スル季節ノ關係モアルガ、主トシテ小牧堰堤下流ノ二萬七千石用水ト呼バレル灌溉用水路ヲ流材路ニ利用スル結果、灌溉季節ニハ流送ガ出來ナイ爲メデアツタ。之ト同時ニ大洪水ノ季ニハ木材ハ一擧ニ海ニ押シ流サレル危險ガアリ、且ツ下流ノ橋梁堤防ヲ破壊サレル虞ガアルカラ、流送中雪融ノ大出水ニ逢ハヌ様ヲ避ケタノモ他ノ一因デアツタ。

庄川ハ射水川ト呼バレル程ノ急流デ、箭ノ射ル如ク速イ流速ノ河川デアリ。從ツテ屈曲、深淵、淺瀬、急湍ガ連續シテ居ル爲メ、降雪深イ北陸ノ冬ノ仕事ニ於テハ、一川々々ニ附添ウテ川狩シテ下ル爲ニハ多數ノ川狩人夫ヲ必要トシタ。其外積雪ニ妨ゲラレルコト等モアツテ、ドノ區域デモ2月末日迄川



B. 沈材ノ輸送



D. 木材ノ貨車積込



A. 筏



C. べるとんこんべやー

眞 葛 材 運 第 四 百 七 十 七 圖

狩ガ出来ルトハ決マラナカツタ。河流ニハ岩石モアレバ屈曲モアリ、木材ハ決シテ獨リデ流下シナイ爲メ、極メテ練達シタ多數ノ人夫ガ一川毎ニ附添ヒ、其介錯ニ依ツテ一川毎ノ集團ヲ維持シツ、流送スルノデアルカラ、流下速度モ寧ロ非常ニ緩慢デ、相當ノ日數ヲ要シタ。斯クテ飛驒カラ越中ヘ流送シ來ル木材ハ國境ヲ過ギテ約 14 軒 (3 里半) ノ見座ト呼バレル地點ヲ通り、今ノ祖山、小牧兩堰堤ノ個所ヲ過ギ、現在ノ小牧發電所ノ下流約 330 米 (3 町) ノ處デ初メテ庄川本流カラ二萬七千石ノ大用水路ニ取容ラレルノデアツタ。見座ハ即チ昭和電力湛水湖ノ終端デ、此ニ流材ノ最初ノ取容レ設備ヲ施シタ處デアル。又二萬七千石用水ト云フノハ此用水ニ依リ 27,000 石ノ米ノ收穫ガアルト稱セラレテ居ル大用水デ、幅 5 乃至 6 間以上ニ及ブ處モアルガ、此用水ニ取容レラレタ流木ハ水路内ニアル木造堰幅 1 間内外ノ閘門ヲ潜ツテ 1 本ヅ、下流ニ流シ込マレ、之ヲ青島ノ土場即チ木材會社用ノ貯木場ニ取容スルコトニナツテ居タノデアル。

二萬七千石用水ノ取水口ニ近ク、庄川ノ中央ニ赤岩ト呼バレル岩石ノ小島ガアツテ、川幅モ相當廣イ。流材收容期間ハ用水口カラ赤岩ニ掛ケ、庄川ヲ横ツテ川倉ヲ以テ堰止メ、之ニ依ツテ流木ガ本川ニ流下サレルノヲ防止シ、用水路ニ誘導スルノデアツタ。

此ニ流材ニ就イテ注意スベキコトハ浮材ト沈材ノ區別デアル。大摺ミニ言フナラバ多クノ木材ノ比重ハ 1 以下デ唯特種ノ少數ノ木材中ニハ 1 ヨリ比重ノ大ナルモノガアル。從ツテ多クノ場合ニハ流材ハ浮ブ爲、此ニ所謂浮材トナルノデアル。唯木根ノ部分トカ、又ハ稍々永ク水中ニ沈積ナドシテアルモノハ水ヲ浸潤スル爲メ、一部沈ンダリ、又ハ全部沈ンダリスルモノガ現ハレル。是レ即チ沈材デ、此浮材ト沈材ノ區別ハ實際ニハ頗ル面倒デアル。

從來流木ハ精密ナ統計ノ徴スベキモノガナイガ、毎年約 3, 4 萬石カラ 4,

5 萬石ヲ超エナイ程度デアツタト言ハレテアル。然ルニ大正 15 年 5 月以降後ニ述ベル様ナ 3 個ノ行政訴訟ガ提起サレテ以來流木ハ急ニ 6, 7 萬石ニ増加シ、昭和 5 年民事訴訟ガ提起サレタ頃ニハ、初メテ運材設備ニ依ルコトニナツテ約 11 萬石ニ上ツタ。而シテ 5 年度ノ實績ニ依レバ沈材ハ總流木數ノ 9% ニ過ギナカツタ。

第二 見座流材取入口 昭和電力ノ湛水區域ノ上流端ハ見座ト呼バレル地點デ、換言スレバ祖山堰堤ニ依ツテ湛ヘラレタ湖水ノ上流ノ境界點ハ見座デアルカラ、見座以下ハ昭和電力ガ流材ヲ輸送スベキ責任區域デ、祖山ノ堰堤ヲ越エル迄連續シテ居ル理窟デアル。從ツテ上流カラ流シ來ツタ流材ハ其平時タルト洪水時タルトヲ問ハズ、悉ク之ヲ把握シテ之ヲ下流ニ送ルヲ要スル次第デアル。見座ノ流材取入口ハ此目的カラ運材設備ノ入口ヲ爲シテ居ル。

見座ノ流材取入口ハ大體 3 ツノ部ト水路カラ成ツテ居ル。即チ(第一)本流ノ流材ヲ喰止メテ之ヲ特ニ設ケタ左岸ノ流材導水路ニ誘導スル框工又ハくりっぶをーく及餘水溢流堤、(第二)浮材放下ニ用フル溢流堤、(第三)貯木場及沈材積込場是デアル。

框工ハ石材ヲ填充シタ框デ、一種ノ透過工ヲ形クリ、頂部ハ堅牢ヲ極メタ鐵材格子デ造ツテアルガ、水流ヲ斜ニ横ツテ、流材ヲ流材導水路ニ送ル爲ニ作ラレタモノデアル。即チ框工ハ洪水ニ堪ヘルト同時ニ、流材ガ殺到シテモ亦能ク之ヲ支へ、且ツ洪水自身ハ成ルベク之ヲ阻止セズ、之ヲ早く下流ニ送ル作用ヲ營マンメルヲ必要トスル。勿論流材期間經過後ハ此框工ノ全部ヲ撤廢スルモノデ、洪水ノ疏通ニ便ナラシメル。流材取締規則ニ依リ、洪水ニ際シテハ上流ニ網場ト呼バレル装置ヲ設ケナケレバナラナイ。網場ト云フノハ太イ藤蔓等ヲ紐リ合セテ河ニ張り渡シ、出水等ノ場合ニ木材ノ流失ヲ防グモノデ、見座ノ上流ニモ亦之ヲ設ケテアリ、以下必要ニ應ジテ堰堤ノ前其他ノ

所ニ之ヲ設ケテアル。

框工ニ接シテ流木導水路ノ入口ニハ餘水溢流堤ヲ設ケテ導水路ニ入り來ル過量ノ餘水ヲ本流ニ溢流センメル。

導水路ニ流來ツタ浮材ハ成ルベク速カニ水路右側ニ設ケタ若干ノ溢流堤カラ本流ニ放下シ、少シ下流ノ網場デ再ビ之ヲ捉ヘル。之ニ附屬シテ角落附キノ豫備浮材溢流堤若干ガアリ、更ニ其上流ニ制水門ガアツテ導水路ヲ横ギリ、側ニ設ケタ排砂路カラ水路底ノ泥土ヲ排出スル働キヲスル。

水路ノ横側カラ原川ニ川入サレタ浮材ハ前ニ述ベタ如ク網場デ捉ヘテ湖水上デ筏組ミトシ、下流ニ曳航スル。筏ハ袋筏ト呼バレルモノデ、流木ニ鐵環ヲ打込ミ、太イまにらろーぶヲ掛ケテ周圍ノ輪形ヲ作り、此ノ丸太圍ヒノ中ニ上流カラ流込ム浮材ヲ收容シ、1 圍ヒ 1,000 本ナリ、2,000 本ナリノ筏ヲ作ルモノデ、湖水ナドデ最モ簡易ニ出來ル筏組ノ方法デアル。

見座取入口ノ終リニ貯木場ガアリ、其入口ニ近ク制水門ヤ排砂路ガアリ、貯木場ノ中デ沈材ヲ處理檢尺シテ後積込場デ船ニ積込ミ、下流ニ曳航スル。貯木場ノ中ニ入來ル浮材ノ爲ニ、角落付浮材溢流堤ヲ設ケ浮材ヲ川入スルニ便シテ居ル。貯木場ノ末端ニハ亦制水門ヲ備ヘテアル。

利賀川ノ流材取入口モ大體之ニ似タモノデアルガ、唯其規模ガ著シク小サイ。

第三 祖山堰堤 祖山小牧ノ兩貯水池ノ間ニアル祖山堰堤ヲ越ヘテ流材ヲ送繼グ設備ヲ連絡輸送設備ト呼ブ。即チ筏モ積込ンダ沈材モ汽船デ曳航シテ見座カラ約 8 軒ノ下流祖山堰堤ニ至リ、此處ニ設ケラレタちゅーんこんべやーデ共ニ堰堤ヲ越エル。之ニハ網場ニ依ツテ捉ヘラレタ浮材ハ前記こんべやーデ堰堤ヲ上下シ、浮材土入場ニ送ラレ、之カラ再ビ川入ヲ爲シ、筏トシテ曳降ル。又沈材積込ノ船ハ浮棧橋ニ繋ガレ、陸上ノ起重機デ吊ラレ、べると

ヲ經テ沈材運搬車=積込ミ、運搬軌道テがそりん機關車ヲ牽引シ、十八谷ト呼ブ處=設ケタ船着場マデ運ンデ、再ビ起重機ヲ荷役ヲ爲シ、船積シテ更ニ小牧貯水池ニ曳航スル。

筏ト荷船ノ曳航ノ爲ニハ、庄川水力デハ、75馬力で一せざるば一と3艘ト35馬力ノがそりんば一と1艘トヲ準備シ、昭和電力デハ曳船ノ數ヲ増シテ少シ小型ノモノヲ備ヘテ居タガ、船形動力ナドニハ後日多少ノ變化ハアルガラウ。

第四 小牧堰堤 小牧堰堤ノ連絡輸送設備ハ大體祖山ニ同ジデアアル。浮材ハこんペヤード堰堤ヲ越エ、積込場デ貨車=積込ミ、約50米許リノ處デ再ビ川入レシテ、庄川水力ノ貯水池ノ中ニ送込ミ、沈材ハ起重機デ曳カレ來タ船ノ中ヨリ揚ゲテ運搬軌道デ堰堤下方マデ運ビ、之カラ滑落傾斜面ニ沿ウテ落シ、更ニ貨車=積ンデ浮材ノ川入場所カラ更ニ1.5斤許リ下迄がそりん機關車ヲ牽引シテ池畔ノ金屋ニ設ケタ土入場ニ至リ再ビ庄川ニ川入ヲ爲ス。斯クシテ責任區域ノ運材ハ終ルノデアアルガ、其下流約325米ガ從前ノ流材取入ニ用ヒラレタ二萬七千石用水ノ入口デアアル。

祖山貯水池内ニ支流小谷川ガ流入シテ居リ、其出材ニ對シテモ浮材沈材ヲ仕分ケシテ同様ニ池内ヲ曳航運送シテ居ル。

第五 運材設備工費 昭和電力ノ支出シタ設備費ハ勿論堰堤ヲ除イテ約1,050,000圓、庄川水力ノ手デ運材設備ニ費シタ工費約375,000圓、小牧堰堤ヨリ金屋土入場ニ至ル専用鐵道建設費約420,000圓ヲ投ジ、更ニ見座運材設備、祖山連絡設備改善等ニ昭和電力ガ投ジタモノ約260,000圓、利賀川筋運材設備ノ一部及金屋土入場ノ改善費ニ庄川水力ガ追加シタル工費約11,000圓ヲ加ヘレバ諸設備費約1,696,000圓、外ニ専用鐵道420,000圓ヲ要シタコトニナツテ居ル。

抑モ小牧發電所ノ水利使用許可ハ大正8年デ、庄川水力ガ發電所主要工事ニ着手シタノハ大正14年4月頃カラデアツタ。祖山發電所ハ大正14年12月ニ水利使用許可ヲ受ケ、大正15年春頃カラ實際ノ工事ニ從事シタ。庄川水力ノ方ガ36,000,000圓、昭和電力ガ26,000,000圓、併セテ62,000,000圓ヲ要シタ。

244. 庄川筋流木ニ關スル大爭議 然ルニ飛州木材株式會社ハ堰堤工事ハ庄川ノ木材流下ヲ不可能ナラシメルカラ、流木權ノ侵害デアリ、其實施設計ヲ認可シタノハ不當デアルトシテ、大正15年5月富山縣知事ヲ相手取り堰堤排除ノ行政訴訟ヲ起シタ。其後之ニ附隨シテ種々ノ訴訟ガ提起サレタガ、次ノ通りデアツタ。

第一 行政訴訟

一、堰堤實施設計認可取消請求事件

原告 飛州木材株式會社

被告 富山縣知事

大正15年5月28日提起、昭和6年10月31日口頭審問終了、書面審理ニ入ル。

一、流材設備認可取消請求事件

原告被告同前

昭和5年6月21日提起、前號ト併合審理。

一、湛水認可取消請求事件

原告被告同前

昭和5年10月20日提起。

大正15年以來6ケ年ニ亘ツテ繫争中ノ庄川筋流木ニ關スル行政訴訟ハ運材設備ノ認可、實地檢證、鑑定、堰堤工事禁止ノ假處分等諸申請ノ却下、湛

水發電ノ開始、運材設備ニ依ル木材輸送ノ完成等ニ依リ昭和6年10月31日口頭審問ヲ終了シテ書面審理ニ移ツタ。

第二 民事訴訟

一、流木權確認並妨害排除請求事件

原告 飛州木材株式會社

被告 庄川水力電氣株式會社

昭和5年5月8日提起、第一回口頭辯論 期日昭和7年2月19日

一、損害賠償請求事件

原告 庄川水力電氣株式會社

被告 飛州木材株式會社

昭和6年5月4日提起。

第三 訴訟ノ經過 大正15年5月飛州木材ガ富山縣知事ヲ相手取り、庄川水力ノ企業ニ係ル小牧堰堤工事實施設計認可取消請求ノ訴訟ヲ行政裁判所ニ提起シテ以來、既ニ11回ニ亙ツテ口頭審問ガ開廷サレ、此間昭和6年8月末實地檢證モ行ハレタ。昭和6年10月31日口頭審問ヲ終結シ、前述ノ如ク書面審理ニ移リ、終ニ結審トナツタ。

大正15年10月飛州木材ハ堰堤工事禁止ノ假處分ヲ申請シタガ、其主張ニ、流木業者ハ舊來ノ慣行ニ依リ流木權ヲ有スルモノデアツテ、富山縣知事ガ庄川水力ニ與ヘタ堰堤工事ノ實施認可ハ此權利ヲ侵害スルモノデアル。又運材設備其他魚道設備等ニ關スル認可ニ就イテハ追テ適當ノ設計ヲ樹テ知事ノ認可ヲ受クベキ旨ヲ、將來ノ附帶條件トシテ先ヅ堰堤工事實施ノ基本認可ヲ與ヘタノハ違法處分デアルカラ、其取消ヲ求メルト云フノガ其主張ノ大體デアツタ。

元來庄川ハ河川法ノ適用河川デアルカラ、河川ノ敷地若クハ流水ガ私權ノ

目的トナリ得ヌコトハ明瞭デアルー方、流木ハ毎年一定ノ時期ニ警察ノ許可ヲ得テ施行スルモノデアルカラ、流木ハ單ニ許可ニ依リ生ズル反射的利益ニ過ギナイノデ、決シテ慣行ニ依ル流木權ト云フ様ナ私權ガ認メラレナイ。又富山縣トシテハ助長行政ノ見地カラ流木、漁業其他一般下流ノ灌溉等ニ對シテモ支障ノ無イ様、企業者ニ對シ適當ノ施設ヲ爲スベキ命令ヲ附シテ堰堤工事實施設計ノ認可ヲ與ヘタノデアツテ、流木ニ關スル附帶認可ハ須ラク措キ、權利侵害ノ問題ハ起ラナイ許リデナク、堰堤ノ工事ヲ完成スルマデハ右岸ノ假排水路ニ依ル木材ノ流下並ニ魚族ノ遡上ハ毫モ支障ガナイカラ、堰堤工事實施設計ノ基本認可ハ適法處分デアル。裁判所ニ於テモ此主張ヲ採用シテ、假處分ノ申請ヲ留保ノマヽ、運材設備ノ認可ガアルマデ、審理ノ目的ガ無クナツタノデ、暫ク訴訟ノ進行ヲ休止シテ運材設備ノ認可ヲ俟ツコトニナツタ。

庄川水力ハ命令ノ趣旨ニ基ヅキ、運材設備及魚道設備等ニ就キ夫々設計書ヲ作成シ、之ガ認可申請書ヲ富山縣知事宛提出シタ。魚道設備ニ關シテハ既ニ昭和4年2月其認可ガアリ、運材設備ニ關シテハ富山縣カラ更ニ内務省ニ稟同シ、同省ハ更ニ逕信農林兩省ニ合議ヲ遂ゲ、三省會議ニ於テ慎重審議ノ末昭和5年4月25日ニ至ツテ之ガ認可ヲ見タノデアル。

運材設備ノ認可ガナケレバ灌水ハ出來ズ、從ツテ發電モ出來ナイカラ、昭和4年末富山縣會ハ滿場一致ヲ以テ發電促進ノ決議ヲ爲シ、富山縣知事其他各省大臣ニモ發電促進ノ陳情ヲナシ、富山高岡兩市ノ商工會議所モ亦同様ノ陳情ヲスル様ナ空氣ニナツテ來タガ、他ノ一方飛州木材ハ昭和4年春岐阜縣ノ荒川、白川、清見ノ3村並ニ富山縣ノ青島村（後參加ヲ取消シタ）等ノ地方自治團體ヲ參加サセルコトニ依ツテ問題ヲ擴大サセントシタガ、昭和5年春ニハ運材設備ノ認可サレル確信ガ出來ルニ至ツタ。

是ニ於テ飛州木材ハ昭和5年4月22日大阪地方裁判所ニ對シ、次ノ假

處分ノ申請ヲ爲シタ。

- 一、小牧堰堤假排水路閉鎖禁止
- 二、第二締切破壊禁止
- 三、運材設備工事禁止

裁判所デハ第一項及第二項ノ假處分ヲ僅カニ 30 萬圓ヲ供託スルコトヲ條件トシテ 4 月 24 日即決シ、第三項ハ却下シタ。飛州木材ハ乾合名會社カラ現金 30 萬圓ヲ供託セシメ、直チニ執達吏ノ手ニ依ツテ執行ヲ了シタ。

斯クテ假處分ガ決定サレタ翌 25 日運材設備ノ認可ガアリ、假處分ハ執行セラレタガ、運材設備工事ハ禁止ノ假處分ヲ免レ、工事ヲ進行サセルコトガ出來タ。然シ假排水路閉鎖禁止ノ假處分ガ解除サレナイ以上湛水發電ハ之ヲ開始スルコトガ出來ナカツタカラ、5 月 1 日大阪地方裁判所ニ對シ、假處分取消ノ訴訟ヲ提起シタ。一方飛州木材ハ假處分ニ對スル本訴ノ提起命令ニ依リ、同年 5 月 8 日日本訴ヲ提起スルニ至リ、民事行政兩裁判所間ニ於テ極メテ錯雜シタ訴訟關係ヲ生ズルニ至ツタ。

假處分取消事件ハ 4 回ノ口頭辯論ト實地檢證ノ結果、不當ナ假處分デアルコトガ明白トナツタ。鑑定證人トシテ飛州木材ヨリ申請シタ林學博士河合鍾太郎君、庄川水力ヨリ申請シタ工學博士大藤高彦君ノ證言ハ共ニ庄川水力設計ノ運材設備ニ依ル木材ノ輸送ハ可能ナリト云フノデ、同年 7 月 10 日 70 萬圓ヲ供託スルヲ條件トシテ假處分ヲ取消スベキ旨庄川水力側勝訴ノ判決ガアリ、翌 11 日保證金ヲ供託シ、12 日假處分取消ノ執行ヲ了シタ。

是ヨリ先、同年 6 月實地檢證ノ直後、裁判所ハ職權ニ依ル和解ヲ勸告シタガ、庄川水力ハ飛州木材ガ無條件ニ訴訟ヲ取下ゲルト共ニ運材設備ヲ認メルト云フ和解ニハ應ズルガ、其他ニハ斷ジテ應ジ難イト主張シ、和解ハ成立シナカツタ。

運材設備ノ方ハ假處分トハ關係ガナカツタ爲メ、銳意其工ヲ進メ、同年 8 月 22 日ニハ運材設備ノ竣工認定ヲ得、同日假排水路閉鎖ノ認可ヲ得タ。庄川水力ハ即日假排水路ノ閉鎖工事ニ着手シ、湛水ヲ開始スル豫定デアツタガ、飛州木材ハ更ニ行政裁判所ニ對シ 8 月 5 日申請書ヲ提出シ、假排水路閉鎖禁止ノ假處分並ニ行政處分ノ執行停止即チ判決ガアル迄ハ假排水路閉鎖又湛水ノ認可ガアツテモ其工事ノ着手ハ罷リナラヌト云フコトヲ主張シ、湛水發電ヲ遲延セシメルコトヲ試ミタ。窪田行政裁判所長官ハ可及的速カニ實地檢證ヲ施行シタ上デ、飛州木材ノ諸申請ニ對シ何分ノ決定ヲ與ヘルカラ、其レマデ假排水路閉鎖工事ノ着手ヲ待ツ様ニトノ口達ガアツタノデ、庄川水力ハ該工事ノ着手ヲ差控ヘタ。實地檢證ニ際シ飛州木材ハ楠木、西垣ノ兩林學博士ヲ鑑定人トシテ申請シタガ、庄川水力ハ裁判所ノ最モ公平ナ選任ニ委ネルコトニシタ。而シテ裁判所デハ飛州木材ヨリノ鑑定人ノ申請ヲ却下シ、當時九州帝大ノ工學部長ナル筆者、工學博士君島八郎ヲ鑑定人ニ決定シ、8 月末日ヨリ 9 月 1 日ニ互リ評定官野澤文彦君臨檢ノ下ニ實地檢證ヲ施行シタ。右檢證ノ結果君島ノ鑑定書ニ依ツテモ、民事ニ於ケル河合、大藤ノ兩博士同様本件運輸設備ニ依ル木材ノ輸送ハ可能ナルコトガ明白トナリ、9 月 10 日次記ノ諸申請ハ悉ク却下サレタ。

- (一) 大正 15 年 10 月 5 日附堰堤工事禁止假處分申請
- (二) 昭和 5 年 8 月 5 日附執行停止願
- (三) 昭和 5 年 8 月 25 日附執行停止願訂正追願
- (四) 昭和 5 年 8 月 28 日附執行停止願訂正申立書

庄川水力ハ以上却下決定ノアツタ後直チニ假排水路閉塞ノ工事ニ着手シタガ、續イテ 9 月 21 日ニハ湛水開始ノ命令ガアリ、直ニ之ヲ實行シ、同年 10 月上旬ニハ愈々發電ノ運ビトナツタ。

民事關係ニ於テモ飛州木材ハ假處分取消事件ニ敗訴シテ後直チニ控訴スルト共ニ富山縣下ノ利賀村ヲ誘ヒ、同年 9 月 4 日村有墓地ガ湛水ニヨリ潛液サレルト云フ理由ヲ以テ利賀村ノ名ニ於テ大阪地方裁判所ニ對シ假排水路閉鎖禁止ノ假處分ヲ申請シタガ、口頭辯論ヲ開クコトニ決定サレ、上記控訴案ハ同 9 月 25 日天野裁判長ヨリ流木權否認ノ判決ガアツテ却下トナリ、利賀村ノ假處分事件モ亦同日理由ナキモノトシテ却下サレタ。

飛州木材ハ更ニ同 10 月 13 日上告シタガ、11 月 20 日自ラ之ヲ取下ゲタ爲メ、該判決ハ確定サレタ。

民事ニ於テ假處分事件ノ本訴ガ大阪地方裁判所片山裁判長係テ審理サレタ。飛州木材ノ主張ハ堰堤築造ノ結果流木ハ不能トナリ、從ツテ流木權ハ侵害セラレタカラ、流木權ノ確認ト妨害排除トシテ堰堤ノ撤去ヲ求メルト云フノデアツタ。然ルニ堰堤ノ撤去ガ事實上不可能デアルト云フ前提ノ下ニ右請求ノ外ニ堰堤ノ築造自體ガ不法行爲デアルトテ、此不法方爲ニ困ル損害賠償トシテ 8 百萬圓ヲ請求スル旨ノ主張ヲ追加シタ。其理由ハ自然ノ流送ニ代ルベキモノトシテハ、森林鐵道ニ依ル輸送以外ニ方法ハナイ。而シテ森林鐵道敷設費ハ 8 百萬圓ヲ要シ、恰モ其全額ハ本件流木權ノ價值ニ相當スルモノデアルト云フノデアツタ。然シナガラ流木權ニ關シテハ、前述ノ通り否認ノ確定判決ガアリ、木材ノ輸送ニ關シテハ昭和 5 年 11 月カラ同 6 年 2 月流木期間内ニ約 264,000 本（見積石數 111,500 石）ノ流木ヲ兩社ノ運材設備ニ依リ、完全ニ何等ノ支障モナク輸送シ得タ事實ニ徴シ、飛州木材ガ該運材設備ニ依ル木材ノ輸送ハ全然不可能デアルト云フ前提ハ少クトモ成立シナクナツタノデアル。

飛州木材ハ右主張ヲ敷衍スル目的ヲ以テ、更ニ森林鐵道敷設ニ付キ、富山縣知事ニ對シ、森林法ニ基ク土地立入並測量ヲ申請シタガ、同年 5 月 28 日

不許可ノ處分ガアリ、損害賠償請求ノ理由ハ全く空虚ナモノトナツタ。

飛州木材ハ流木權ヲ以テ財産ノ價值ヲ有スル財産權ナリト云ヒ、或ハ庄川上流ニ所有スル山林ノ價格 19 百萬圓ニ相當スル財産權ナリト主張シ、或ハ森林鐵道敷設費 8 百萬圓ニ略ボ相當スルモノダト稱シ、準備手續ノ都度其主張ヲ變更シタ。又問題ノ訴訟モ 6 年 7 月 10 日第 7 回準備手續施行ノ際、裁判長カラ 8 百萬圓ト決定サレ、24,000 餘圓ノ法定印紙ノ貼用ヲ命ゼラレタ。而シテ準備手續ハ之ヲ以テ終結サレ、第一回ノ辯論ヲ同年 10 月 10 日ニ開廷ノコトニ決定シタノデアツタガ、之ニ先チ 9 月 16 日飛州木材ハ突然大阪地方裁判所ニ對シ、昨年度流木期間中ニ於テ湛水區域中ニ沈下シタ木材并ニ流木期間終了後ノ殘留材等ニ關シ、證據保全ノ申請ヲ爲シ、翌 17 日右申請ガ決定サレタ。次イデ同 19, 20 日ノ兩日片山裁判長臨檢ノ下ニ實地檢證ガ行ハレタ。飛州木材ハ前年度ニ於ケル流木材積ハ約 28 萬石デ内運材設備ニ依リ流木期間中青島ノ貯水場ニ到着シタモノ約 13 萬石、流木期間終了後上流ニ殘留セルモノ約 8 萬石デ、結局約 7 萬石ハ流木期間中ニ於テ湛水區域ニ沈下シタモノデアルト主張シタガ、飛州木材ガ富山縣ニ對シテ出願シ、其許可ヲ受ケタ材積ハ 28 萬石デ、一方流木ノ大部分ハ岐阜縣カラ流下セラレルモノデアルニ係ラズ、岐阜縣デ許可サレタ總材積ハ約 12 萬石デアツタ。即チ兩縣ノ許可材積ニハ 16 萬石ノ開キガアルコトヲ裁判所デ追及サレテ、飛州木材ハ岐阜縣ニ於テ脱稅ヲ行ツタ爲デアルト辯解シタ。

又殘留材ニ就イテモ、飛州木材ハ經濟上ノ採算ヲ離レテ非常ニ多數ノ木材ヲ流下シ、而カモ故意ニ流下ヲ懈怠シタ爲ニ多數ノ殘留材ヲ生ジタ事實モアリ、又流木期間終了後即チ 6 年 9 月證據保全ノ檢證當時、湛水區域中ニ多少其以前カラノ沈木ガアツタコトモ實際デアツタ。飛州木材ハ前記證據保全ヲ理由トシテ準備手續ノ再開ヲ申請シタ結果、6 年 10 月 10 日再ビ準備手

續ガ施行セラレタ。飛州木材ハ前述ノ通り、損害賠償トシテ森林鐵道敷設費 8 百萬圓ヲ請求シタガ、新主張トシテ流木權ノ行使不能ニ依リ營業ノ利益ヲ喪失シタコトニ因ツテ蒙ツタ損害及將來蒙ルベキ損害ヲ計算スレバ約 8 百萬圓ニナル。此二ノ損害算出ノ方法ハ單ニ觀察ノ方面ヲ異ニシタモノデ、損害ガ競合又ハ併合シテ居ルモノデハナイト申立テタ。更ニ同年 11 月 30 日施行ノ準備手續ニ於テハ前年度末木材輸送ノ實施ニ依リ約 40 萬圓ノ實損害ヲ蒙ツタカラ、將來此損害ヲ繰返スモノト假定シテ約 8 百萬圓ノ損失ヲ算定スルコトガ出來ル。然シコレハ單ニ損害算定ノ標準ヲ示シタモノニ過ギヌノデアツテ、運材設備ノ不完全ニ因リ蒙ツタ現實ノ損害又ハ將來ノ損害ヲ請求スルモノデハナイ。而シテ該損害算定ニ關スル適確ナ計算書ガ未ダ整備シテ居ナイカラ、準備期日ヲ延バシテ欲シイト申請シタガ、裁判所デハ延期ノ必要ナント認め、其結果準備手續ヲ終結スルコト、ナリ、第一回口頭辯論期日ハ昭和 7 年 2 月 19 日ト決定サレタ。

飛州木材ガ損害賠償請求ノ根本理由ハ稍々捕捉シ難イ感モアルガ、堰堤ノ築造自體ガ不法行爲デアツテ、運材設備ノ不完全ナルガ爲ニ蒙ツタ損害ヲ請求スルモノデハナイト云フノデアル。從ツテ損害賠償ヲ請求スルナラバ先決問題トシテ先ツ認可ノ違法性ノ有無ニ付キ行政裁判所ノ判決ヲ得タ上、該認可ガ違法處分デアツタ場合ニ於テノミ、初メテ民事裁判所ニ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ル譯デアル。

行政事件ノ方デハ堰堤實施設計認可取消請求事件ハ本訴訟事件ノ重心デアツタ運材設備ガ昭和 5 年 4 月 25 日認可セラレ、同年 11 月ニハ愈々發電ノ運ビトナリ、且ツ運材設備ニ依ル木材ノ輸送ハ前年度ノ實施ニ依リ不都合ノ無イ事ガ立證サレタノデ、6 年 10 月 31 日口頭審問ハ終結セラレ、書面審理ニ移ツタ。前ニ述ベタ通り、此行政事件以外ニ繋屬シテ居ル二ツノ行政事

件ハ流材設備認可取消請求事件ト洪水認可取消請求事件デ、庄川水力モ之ニ參加シテ居タガ、是等ハ基本行政事件ニ附帶スルモノデアリ、同様何レモ書面審理ニ移リ、基本行政事件ノ判決ニ依リ解決セラルベキモノデアツタ。昭和 7 年 12 月 20 日裁判長遠藤源六氏ノ下ニ次ノ裁判宣告書ガ言渡サレタ。

右當事者間ノ大正 15 年第一四一號堰堤實施設計認可取消請求ノ訴、昭和 2 年第一二五號發電水利使用變更許可並同工事實施認可取消請求ノ訴、同 5 年第一九九號高堰堤式發電起業區域内木材輸送設備施設認可取消請求ノ訴、同年第二九四號排水路閉塞並排水口填塞工事施行認可取消請求ノ訴ニ付當事者ノ辯論及政府委員ノ意見ヲ聽キ併合審理シ判決スルコト左ノ如シ。

主 文

原告ノ請求相立タズ

訴訟費用中參加人清見村、花川村、白川村及利賀村ノ參加ニ因リテ生ジタル部分ハ當該參加人ノ負擔トシ其餘ハ原告ノ負擔トス

事 實 (略)

民事ニ於テ流水權確認並ニ妨害排除請求事件ヲ重心トシテ行政訴訟ト併行審理中デアツタガ、原被兩告ノ準備手續ヲ終了シ、昭和 7 年 2 月 11, 12 ノ兩日片山裁判長ノ下ニ實地檢證ガ行ハレ、大藤高彦及君島八郎ハ鑑定證人トシテ檢證ニ立會ツタ。是レ昭和 6 年 12 月 9 日ニ未曾有ノ洪水 (流量 21,000 秒尺) アリシヲ機トシ、件ノ見座ノくりっぶをーくガ此程度ノ洪水ニ耐ヘ得ルヤ、及見座ヨリ青島貯水場ニ至ル現在ノ運材設備ニ依リテ 1 日 10 時間ノ作業ノ結果、幾何ノ材木ヲ輸送シ得ル能力アリヤ等 12 問ノ鑑定事項ヲ擧ゲテ昭和 7 年 4 月 21 日鑑定ヲ命ゼラレ、鑑定書ヲ提出シタリ、其後同年 7 月 1, 2 兩日ニ互ツテ復タ片山裁判長ノ下ニ第二回ノ實地檢證ガ行ハレ、京都帝國大學教授農學博士市河三録、九州帝國大學講師工學士中村猪市、東京帝國

大學講師林學博士西垣晋作、朝鮮總督府林業試驗場長林學博士鏑木德二、盛岡高等農林學校教授林學博士三浦弟二郎ノ5人ニ鑑定人トシテ立會ハシメ、15日間鑑定セシメタ。審理ノ結果結審シテ昭和8年3月7日次ノ判決ガ申渡サレタ。

右當事者間ノ昭和5年(7)第一一五一號流木權確認並ニ妨害排除請求事件ニ付當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告ハ原告ガ岐阜縣大野郡莊川村大字新淵地内ヨリ富山縣東礪波郡青島村大字上村地内ニ至ル庄川筋ニ於テ、其本流並ニ支流ノ自然ノ水流ヲ利用シテ材木ヲ流送スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認ス。被告ハ原告ニ對シ金20萬圓ヲ支拂フベシ原告其ノ餘ノ請求ハ凡テ之ヲ棄却ス
訴訟費用ハ之ヲ7分シ其1ハ被告其ノ餘ハ原告ノ負擔トス
本判決中金員支拂ノ部分ニ限リ原告ニ於テ金7萬圓ノ擔保ヲ立ツルトキハ假ニ執行スルコトヲ得

事 實 (略)

以上ノ外庄川水力カラ飛州木材ニ對シテ提起シタ損害賠償事件ガ大阪地方裁判所ノ民事々件トシテ繫屬シテアツタ。其目的ハ(一)發電遲延ニヨル損害、(二)假處分取消ノ爲庄川水力ガ供託シタ70萬圓ニ對スル年7分ノ收益ト供託法定利息トノ差額、(三)訴訟費用ノ3項ヲ請求總額ハ約30萬圓デアツタ。但シ70萬圓ハ飛州木材ガ假處分決定ヲ得ル爲メ供託シタ30萬圓ト共ニ兩會社取下ニ同意シテ昭和6年7月上旬取下ノ手續ヲ了シタ。